

広島経済同友会尾道支部 令和6年度 事業計画



広島経済同友会尾道支部 支部長 宮地 宏治

“おのみち”の魅力は“びんご”の魅力であり“ひろしま”の魅力です。

広島を“いかそう”～新時代への適応と持続的な発展を目指して～のスローガンのもと、地域が一体となりその魅力を発信していかなければなりません。

尾道にはたくさんの「まち・ひと・しごと」の宝があります。しかしながら多くの課題を抱えているのも事実であり、私たち尾道支部ではそれらを解決に向けて2023年3月に提言書「尾道みらいビジョン2023」を発表しました。その中で①まちづくり、②観光、③産業、④教育、⑤地域連携に関して、その具体策を示しましたが、この提言書をより進化させるためにも包括的で地道な取組みが必要とされています。

あらためて経済同友会の原点に立ち返り、経済人である私たち自らが正しい危機感を持ち、活力を取り戻すための問題提起を行うことが使命であると考えています。

〈令和6年度基本方針〉

1. 経済の活性化と多様性の推進

新たな産業の育成や地域資源の有効活用が必要であり、地元企業や起業家の支援を強化し、新たなビジネスモデルや技術の導入を促進していくことが重要です。また、地域の伝統や文化を活かした観光資源の開発も検討し、地域経済の多様性を推進しなければなりません。

2. 人材の育成と定着の支援

少子高齢化や生産年齢人口の急激な減少に大きく影響を受ける人手不足はまさに喫緊の課題です。地域の魅力を最大限に引き出し、若い世代の地元への定着を促進すると共に地元企業と連携した職業教育やスキル向上プログラムの拡充、また地域で働くことの魅力を高め、人材の流出を防ぐための施策を進めなければなりません。

3. 地域社会の協力と連携

尾道の発展はもちろんですが、そのためには地域社会全体が一丸となって課題に取り組むことが不可欠です。行政や関係諸団体との連携を強化し、情報共有や相互の交流を通じて、広域的な課題解決に取り組むことで地域全体での持続可能な発展への道を目指さなければなりません。

4. 会員相互の交流

高い志を持つ会員が大いに交流することで組織の活性化を図り、弛まぬ自己研鑽の場としてチャレンジ精神を養うとともに世代を超えて変革への叡智を結集し地域全体にわたるような発信力を高めていかなければなりません。



日本の地方経済

広島経済同友会尾道支部 副支部長 円福寺 雅之

昨今、日本の地方経済は、少子高齢化等に伴い格差はありますが縮小傾向にあると思われます。しかし、3月には北陸新幹線の金沢・敦賀間開通により福井県では経済拡大の期待が高まっていると思われます。また、熊本県菊陽町ではTSMCの新工場進出に伴い、経済波及効果は今後10年間で10兆円以上とも言われています。

尾道支部でも宮地支部長のもと現状に甘んじることなく行政、諸団体、地元企業等と連携し尾道経済の更なる発展の為に活動して参ります。



「狭き門より入ろう」

広島経済同友会尾道支部 副支部長 河本 泰行

「狭き門より入れ」とは新約聖書マタイ福音書第7章にある言葉ですが、本当に自分にとって価値ある成果を得たいならば、困難な道を歩んでいくべきだという意味です。

易きに流れてはまちも会社も繁栄は覚束ないことは誰でも知っていることですが、改めて自戒の念を込めて「狭き門」を選ぶ道を探索し、提案したいものです。

険しく長い道りを経て高い山に登るように、高い理想に向かって険しく長い道りを行きましょう！

今年もよろしくお願いします。



尾道市の更なる発展に向けた活発な議論を

広島経済同友会尾道支部 副支部長 高垣 孝久

提言書「尾道みらいビジョン2023」において、尾道市のランドデザインを検討する上で、「まちづくり・人口問題・観光・産業・教育・連携」など、包括的な分野の提言を行いました。他都市への人口流出、人口減少による個人消費の減少、観光消費額の増加策、雇用の確保、尾道市立大学の市内就職率など、様々な分野の課題があるなか、より踏み込んだ根本原因を解決できる、明確な取り組みを実現しないといけないと考えています。

先日開催された尾道商工会議所と尾道市議会議員10名との意見交換会において、上記提言書を議員の皆様にご紹介させていただきました。「目から鱗」「大変勉強になった」とおっしゃる議員もいて、こうした他団体との連携の重要性を感じる事が出来ました。

提言内容を出来るだけ多くの分野で実現すべく、「尾道を考える委員会」「教育文化委員会」の皆様と共に、行政との意見交換や他の経済団体との連携など、具体的に取組んでいきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。

3月例会報告

開催日時：令和6年3月18日（月）18：30～20：00

開催場所：尾道商工会議所ビル2階 会議室

担当委員会：尾道を考える委員会

演 題：「地域の魅力を事業の力に」

～Ryokan尾道・西山はこうしてリブランドした～

講師／地域ビジネスプロデューサー 南雲 朋美 氏

瀬戸田視察研修旅行

開催日時：令和6年2月27日（火）

視 察：瀬戸田エリア

参加者：14名

担当委員会：交流・拡大委員会

10月の備後都市懇話会でお世話になった瀬戸田エリアを再訪。都市懇話会では時間の都合でご案内できなかった「平山郁夫美術館」と「未来心の丘」も含めた視察・体験を行った。

当日は天候に恵まれ、往路は駅前桟橋から定期高速船を利用。「平山郁夫美術館」で巨匠の作品を堪能した後、希望者は「未来心の丘」へ。若い女性や外国人旅行者の姿も多く、観光地としての可能性を改めて認識した。

「しおまち商店街」を徒歩で港方向に戻り、「Yubune」の銭湯を利用。銭湯内部正面は瀬戸内の風景を描いたモザイク画となっており、サウナも完備。通常は宿泊者のみ利用の2FのYuagariラウンジも、今回は特別に利用させていただくことができた。

懇親会は「Soil Minatoya」で、美味しい薪料理のコースを頂いた。

尾道旧市街地とはまた違った魅力を持つ瀬戸田を満喫し、今後の発展がますます楽しみとなる視察であった。

今回の支部旅行にあたり、Yubune総支配人の窪田淑様、および本会会員でもあり懇親会から参加のしおまち企画の小林亮様には、ご多忙の中、特別に調整やご配慮を頂いた。

改めて謝意を申し上げたい。





三原支部との役員交流会

開催日時：令和6年3月11日（月） 18：30～20：30

開催場所：三原国際ホテル

参加者：18名

広島経済同友会 尾道・三原支部役員交流会が開催されました。数十年前に当時の三原支部支部長の後藤和之様と尾道支部支部長の徳永修さんが発起人となり始まり、一時期開催されていっていましたが、去年から再開されている役員交流会で、各支部の近況の報告や、これからの取り組む課題等お互いの状況を知る良い機会となっています。

当日は、三原支部長の原邦高様と尾道支部長の宮地宏治さんの挨拶・支部紹介から始まり、発起人の後藤和之様の挨拶、徳永修さんの挨拶・乾杯の発声と続き、その後の歓談では参加者が積極的に意見交換をし、地域の発展の為に両支部が連携を取ることも必要と感じた大変有意義な時間でした。



会員異動

【新入会員】 中西 海斗さん 〈(一社)Light House 代表理事〉

【交替会員】 藤村 浩司さん 〈中国電力ネットワーク(株)尾道ネットワークセンター 所長〉 ※旧会員：國本 敦司さん

土井 康稔さん 〈(株)広島銀行 尾道支店 執行役員支店長〉 ※旧会員：山内 栄次さん

入会	交替	退会	増減	会員数
1	2	0	1	82

※臨時総会以降